



私たちは、PDA高校生即興型ディベート全国大会で優勝し、世界大会に出場することができました。

世界大会では英語を母国語とする様々な国の高校生と戦い、モロッコとインドネシアに2勝することができました。

私はディベートを通して、社会問題、政治、教育、科学など様々な分野について深く学ぶことで自分の視野を広げ、追求し、相手に伝える力を身につけ、それを国際舞台で発表する機会を得ることができました。

沢山の練習と試合を通して経験と信頼関係を共に作り上げることができたチームメート、そして日本を代表するディベート指導者である池上先生に熱心に指導して頂いた事を心より感謝しています。

本当にありがとうございました。

【インターナショナル部】
3年 瀬戸 桃子

私達は、信州学の授業で長野県について調べたことをきっかけに、RESASを使って地元の課題を発見し、地元を元気にする政策アイデアを募集する「地方創生☆政策アイデアコンテスト2016」に昆虫食を使って長野県を活性化させる政策を提案し、地方創生担当大臣賞を頂きました。

私達が提案したアイデアは、長野県の農業が高齢化などが原因で衰退したことにより増加した耕作放棄地を使用し、そこで育った昆虫を使って林間学校や加工食品を作る「昆虫ビジネス」と、昆虫の高い栄養価を活かし、昆虫食に馴染みのない方も抵抗感なく親しんで貰える「昆虫サプリメント」をつくるという2つです。

今日、あまり良い印象を持たれない昆虫食がソウルフードとして長野県の抱える様々な課題を解決出来たら...

私達はこれから他校や専門家の方の協力を得ながら実現に向け活動していきます。
(2年 横山 瑠奈)

地方創生大臣賞

地方創生担当大臣賞 受賞

2年 内田 佑香・横山 瑠奈



選択をしました。さくらは、午前は学校で、夕方から翌朝まではボランティア団体の方のお宅で過ごし始めました。2016年8月2日早朝にさくらは息を引き取りました。
冷たくなったさくらの体は瘦せかけており、骨と細胞の感触が直に感じられました。「死を受け止める」という選択は私たち人間が勝手に決めたことです。何が正しかったのか未だに分かりませんが、さくらと関わり、命と向き合ったことは私達にとって大きな経験となりました。



生物研究部では、さくらが県陵に居ついてからずっと関わりを持ち続けてきました。



生物部 3年 杉本 みなみ



2016年4月、さくらの腹部が膨らみ始めたため病院で診てもらったところ、余命1ヶ月と診断されました。

私達は関わってきた者の責任として最期まで目を背けず、さくらの死に向き合うという